

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(4月)

<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎

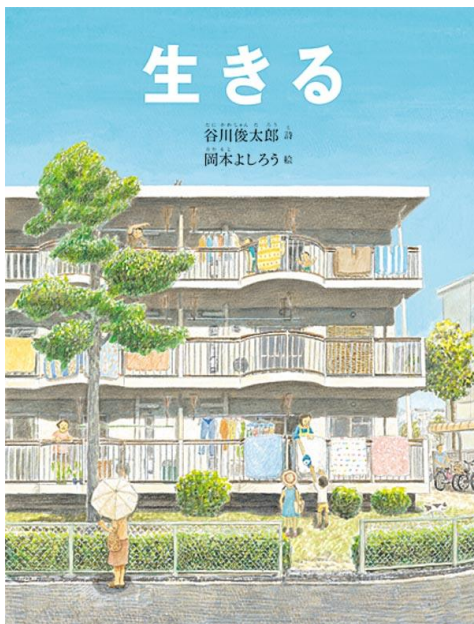
矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『 生 き る 』

谷川俊太郎 詩 / 岡本よしろう 絵 / 福音館書店

対象：小学生中学年からから高齢者まで



内容のご紹介

4月に入りますと新年度となり、行政関係や学校、会社等の人事異動があります。子どもたちも入学式で忙しい日を送ります。

私は、渋沢栄一の“日新たなるを要す”を座右の銘にしています。「新たな志を持つ」ということです。

今月ご紹介する絵本は、谷川俊太郎先生の“生きる”です。私は、生きることは支え合うことだと思います。生存しながら地域社会や家庭を創り、未来を創ることが役目だと思います。

当たり前のように毎日を過ごすことは、生きているということに感謝をしなければなりません。

日本は、百歳時代に入り、戦後80年になります。先の大戦では、約230万人が戦死しています。大正時代に生まれた人たちが、戦後の経済の高度成長を創り、今があります。生きることの大切さを、子どもたちにも学んでほしいです。

生きていること いま生きていること……とさまざまな人生の瞬間の情景を連ねる、谷川俊太郎の詩『生きる』が初めて絵本になりました。小学生のきょうだいと家族が過ごすある夏の日を描き、私たちが生きるいまをとらえます。足元のアリのじっと見つめること、気ままに絵を描くこと、夕暮れの町で母と買い物をする……。子どもたちが過ごす何気ない日常のなかにこそ、生きていることのすべてがある、その事実がたちあがってきます。

(紹介文:福音館書店/矢祭もったいない図書館)